

会議録

会議の名称	平成29年度 清須市行政改革推進委員会（第3回）
開催日時	平成30年3月28日（水）午前10時～午前11時18分
開催場所	市役所南館3階 第1会議室
議題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 行財政改革推進プランに基づく行財政改革の取組状況等について</p> <p>(2) 平成30年度の行政改革推進委員会について</p> <p>4 閉会</p>
会議資料	<p>会議次第、委員名簿、配席図 (会議資料)</p> <p>資料1 行財政改革推進プランに基づく行財政改革の取組状況等について</p> <p>資料2 平成30年度 行政改革推進委員会のスケジュール(案)</p> <p>参考資料 清須市第2次総合計画 実施計画（2018－2020）</p>
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	野田委員(会長)、齊藤委員、山本委員、綱島委員、川口委員、山田委員、高山委員、福田委員、中田委員
欠席委員	なし
出席者（市）	永田市長、宮崎企画部長、加藤企画部次長兼人事秘書課長
事務局	<p>(企画部企画政策課)</p> <p>河口次長兼課長、赤羽副主幹、藏城副主幹、杉原係長、石附主査</p>
会議録署名委員	山田委員、高山委員
<p>1 開会 (事務局)</p> <p>ただ今から、平成29年度 第3回清須市行政改革推進委員会を開催します。</p> <p>皆様には年度末の大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>はじめに、委員会の開催にあたりまして、永田市長からごあいさつを申し上げます。</p>	
<p>2 あいさつ</p>	

(永田市長)

改めまして、おはようございます。

このところ暖かくて、良い天気が続いておりまして、清須の桜もほぼ満開というような状況になっていまして、清須の「春日五条川さくらまつり」が4月7日の開催でございまして、今日の尾張版に載っていたのですけれども、それぞれの市町でたいてい4月7日前後を中心に桜祭りをやるということで、清須も商工会さんを中心に、7日を予定しておりますけれども、桜がなくなってしまうのか本当に心配しているところでございますが、本日は委員の皆様におかれましては本当にお忙しい中、本委員会にご出席を賜りました。誠にありがとうございます。

さて、清須市にとって、もう終わりでございますが平成29年度は、第2次総合計画をスタートさせまして、本市の更なる発展に向けて、まちづくりの新たなステージへの歩みを始めた年でございました。

こうした中で、行政改革推進委員会におかれましては、総合計画で掲げる将来像、それから7つの政策の実現にあたりまして、その下支えとなる行財政基盤の構築に向けた取組について、本当に熱心にご議論をいただきました。誠にありがとうございます。

これまでの委員会の議論を踏まえつつ、私の始めての本格的な予算である当初予算をこの3月議会に上げさせていただきましたが、市民の皆様とともに全職員一丸となって、本市の総合力をさらに高めまして、「力強い清須」を実現させていきたいというふうに考えております。当初予算につきましては、この3月議会でご承認をいただいたところでございます。

本日は、本年度最後の委員会ということになります。行財政改革のこれまでの取組結果や、来年度に予定する取組など、行財政改革推進プランに基づく行財政改革の取組状況等をお示しさせていただいております。本日の議論を踏まえまして、引き続きしっかりと行財政改革に取り組んでまいりたいと考えておりますので、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればというふうに思っております。簡単ではございますが、開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 議事(1) 行財政改革推進プランに基づく行財政改革の取組状況等について

(事務局)

永田市長につきましては、他の公務がございまして、ここで退席させていただきます。

それでは、議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、野田会長にお願いいたします。

(野田会長)

皆様、おはようございます。

今日は平成 29 年度最後の委員会ということでございまして、二つの議事を予定しています。

今日の一つ目の議事は「行財政改革推進プランに基づく行財政改革の取組状況等」でございます。昨年度のこの委員会での審議を経て策定しました行財政改革推進プランに基づきまして、行財政改革を今年度きっちりと進めていただいております。プランの中でも特に、行政評価を活用した事務事業の見直し・改善の部分で、所管課で実施した評価の妥当性・客観性の確保などの観点から、昨年7月に開催しました第1回目のこの委員会で、内部評価を外部から見る視点で客観性を持たせようということで、皆様から活発な意見をいただいたところでございます。そうした意見を踏まえまして、市の方で事務事業の見直し・改善を進めていただいたところでございます。

そして、昨年11月に第2回目の委員会を行いました。その委員会で出していた意見を踏まえて、今回いくつか改善しているという部分を後でご説明いただきます。

今日の第3回目の委員会では、そのプランに基づく行財政改革の取組状況ということで、平成29年度の取組による財政効果額、平成30年度のプランに基づく主要な取組の内容、そして特に、行政評価を活用した事務事業の見直し・改善の状況を中心にご議論をいただきたいと思っております。

それでは、資料1について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料1 行財政改革推進プランに基づく行財政改革の取組状況等についてを説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

大きく三つのポイント、項目についてご説明いただいたと思っております。1点目は財政状況について、歳入・歳出、市債、基金に関する現状についてお話いただきました。2点目は行財政改革の取組に関する一覧、2ページにあたるところについてお話いただきました。そして3点目、これが皆様にご意見をいただいたところの反映状況についてですけれども、特に外部から色々な意見をいただいたところをどういうふうに反映してきたかということについて最後のページまでまとめていただいております。

一応ここでは皆様の意見を踏まえて施策の方向性、あるいは細かな取組について、担当課の方でご議論いただいて、それを基にした予算を最終的に議会でご承認いただいたということではあるのですけれども、平成30年度の予算案を実際に実施していくのは平成30年度に入ってからでございますので、その実施を迎えるにあたりまして、この行財政改革の取組状況に関して、皆様のご意見、ご質問なりをお受けしたい

と思います。

いかがでしょうか。齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

齊藤でございます。ご説明ありがとうございました。

まず1点目ですが、2ページの行財政改革推進プランに基づく行財政改革の取組状況についてというところでございますが、ちょっと違和感を感じるのは、取組9で「住宅用地球温暖化対策設備設置費補助金」「浄化槽清掃費補助金」という欄がございますが、これは補助金で、どういう形で書いてあるかというところ、例えば平成29年度の当初予算が約860万円だったのが、平成30年度には約610万円に減りました。その結果として約250万円が財政効果としてあがりますよというふうに書いてあるわけですが、補助金ですから、減らすことというのは多分行政側のコントロールがすごくきくところで、アウトプットとしてはそういうふうな形で書けるのかもしれませんが、やはりこういうところはもう少しアウトカム、それによって例えば設置率がアップして、今までやってきたことによってもう十分浸透したので補助の必要がないのであれば、効果として見えるのかなとは思いますが、コントロールがすごくきくところで、少し違和感があるのかなというふうに思った次第です。

ただ、金額的には減りますよというところなのかもしれませんが、他は例えば取組10というところで見ると、一括発注を行ったとか、供給事業者を変更したとか、LED化とかで、その効果としてここであがっている額というのがしっくりくるのですが、こういった補助金とかに関しては、こういう書き方はどうなのかなと、私としてはしっくりくるころではなかったなというふうに思っていました。

ですので、今後色々な評価をする時にはアウトプット、アウトカムというところを意識して、内部でも評価をされるということを要望としてあげたいなというふうに思っております。

すみません、もう1点ですが、色々な形でこの委員会での意見を反映していただきまして、ありがとうございます。5ページの「生涯学習の充実」のところ図書館というところがあるのですが、今後色々なことを検討していきますよということが書いてありましたので、今図書館というところ、他の自治体さんもかなり色々なことで挑戦的なことをやっていらっしゃると思いますので、是非清須市さんの方でも、他自治体を学びながら、清須市らしいというところで、どういう提案がされていくかなというところを期待しています。これは観光とかにもつながるところだと思いますので、色々なところで色々な取組をやっていきますので、清須市らしさということ、今後次の展開で期待しているというところがございます。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございました。

そうですね、特に1点目につきましては今齋藤委員がおっしゃられたように、政策の本来の目的があって、達成されているからもうちょっと補助の上限を見直しするというのが一つ前提になるのですが、補助の対象を拡充しつつ、上限を見直したという書きの方が確かに良いということですね。ある程度、地球温暖化対策の設備設置が浸透した、もしくは浄化槽の清掃に関して一定程度浸透したという、それが分かるような何かアウトカム、成果に関わるようなものを今後見つけていただければなというふうに思います。

2点目のことについては、これは他自治体の事例をもう少し学びながら、独自性みたいなものがあると、より分かりやすいということですね。それはそのとおりだと思います。これは次年度、平成30年度の取組を進めるに当たってご留意いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

他にどうでしょうか。川口委員、お願いします。

(川口委員)

今日はありがとうございます。川口です。先ほど先生の方からも少しお話があったのですが、観光ですね。生涯学習課さんや、産業課さんの方で色々な観光とか、図書館の拡充、サービスの拡充というのをやっていかれるようなのですが、前々回にも少しお話をさせていただいたのですが、せっかく清洲城があって、それから4月7日のさくらまつりの会場になる図書館、美術館等もありますので、施策を見てもそれぞれの課でやっていらっしゃるのはよく分かるのですが、観光という大きな部類で見ると、一緒に見てもらっても良いのではないかなと思います。

清洲城に関する事、また図書館に関する事に関して、それぞれの課ではなくて、一緒に何かやれないかなというところが特に見えてこないのので、今後來期、再来期の話になってくるとは思いますけれども、協働事業みたいなことも考えていく方が効果的ではないかなと思いますので、今後またよろしくお願いいたします。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。

すごく重要ですね。各課の連携をきっちりされて、しっかりと観光施策を推進してほしいということですので、それが何か分かるような形で、来年度、平成30年度のどこかで進捗状況を、なかなか難しい部分もあるかもしれませんが、どういうふうに連携できるかということもお聞かせいただきたいと思います。

山本委員、お願いします。

(山本委員)

山本です。ご説明ありがとうございました。

私からは2点ございます。まず1点目は、企画政策課内に市民協働係を新たに設置

されるということで、今までもされていたと思うのですが、そういうことを組織として動くという意味を示されているのはすばらしいことだなというふうに感じました。資料1の3ページの左側に書いてあるとおり、情報発信力の強化、あるいは交流拠点づくりの推進を是非お願いしたいと思います。

もう1点は、私がずっと言っていた観光振興です。言語対応については、英語、中国語、韓国語に対応されるということで、すばらしい方向性だなというふうに思っております。

加えて、前から申し上げていますが、やはり観光振興のためには交通の整備が欠かせないということを改めて申し上げたいと思います。「あしがるバス」の観光施設と駅との間の便が、せめて1時間に1本くらいの便があれば行きやすいと思いますし、それが色々な諸事情で難しいのであれば、清須市としてバスを持って運行するのか、あるいはそれがお金を取らなくても良い形で活用できるのか、フリーハンドで動ける要因、例えばさくらまつりでも、清洲城まで行くのに交通の便が悪いので、その時に無料のピストンバスとかを市の持っているバスでやる、そういうことでも参加者数は大きく違ってくると思います。やはりどうしても交通の便、これが大きな課題になってくると思います。単年度ではなくて、複数年度にまたがるのかもしれませんが、2020年の朝日遺跡の新館に向けて、その整備を是非ご検討いただきたいということを改めて申し上げます。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。

3点ございます。前者2点はそのとおりだと思います。情報発信機能の強化と観光振興に関して、そして最後に交通の整備、観光に関わる場所ですが、なかなかお金のかかる部分ではございますけれども、一応平成30年度もある程度はそういったご意見も踏まえて、できる範囲で検討を進めていただいているという結果は表れていると思います。ただ、朝日遺跡はより大きな効果を得るチャンスでございますので、平成30年度に向けて、改善できる場所があれば改善をご検討いただければと思います。またその進捗状況についてはご報告いただければと思います。

他にどうでしょうか。高山委員、お願いします。

(高山委員)

資料を見ていて、「あしがるバス」についての純粋に質問です。

「あしがるバス」の増便と書いてあって、何だろうと置いていたところなのですが、参考資料を見ると予算も1,300万円くらい上がってしまっていて、平成30年度の予算組みはもうされているところなので、具体的には多分今の観光のところをメインに「あしがるバス」を充実させる予定なのかなとは思いますが、具体的にはある程度どんな議論がなされたのか、教えていただければと思います。

(事務局)

「あしがるバス」につきましては、今年度、今年の10月にルート・ダイヤ改正をいたします。そのルート・ダイヤ改正の主な視点としまして、結果的にバスを1台増車いたしますが、その考え方としてまずは公共交通という視点を持って、今清須市内にある交通不便地域といわれる地域の拡充というところに重点をおいて、ルートの改正を進めています。具体的には春日地区が交通不便地域といわれる地域ですので、そちらの方に1台増車しまして、結果として今ある3路線につきましても、1便あたりの時間が短縮され、便数が増加する形となっております。

ただ、今ここでご議論いただいております観光という視点におきましては、結果的に貝塚資料館、清洲城等についての本数は増えていますが、観光に特化した考え方による増便ではございませんので、結果的にそうなったということでございます。

平成32年の貝塚資料館のリニューアルは当然我々も視野に入れておりますので、そちらを視野に入れたルート・ダイヤ改正は、次のステップで深く検討していきたいというふうに考えております。以上です。

(高山委員)

ありがとうございました。

(野田会長)

他にどうでしょうか。活発に色々なご質問、あるいはご意見をいただければと思います。山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田でございます。

個別の施策について、内部の評価を行って、外部からそれを評価し、それに対する意見や新たな取組についてのお話など、しっかりやっけて前に進んでいるというのはよく分かるのですが、私もそうなのですが、段々と小さいことに目が向きすぎてしまって、根本的には何かという話になった時に、資料1の2ページの「今後の財政見通し」にある「予算の重点化・効率化や歳入確保の努力、事業の質の向上」という話になると思います。事業の質の向上というと、内部評価をしていただくことで、携わっている方の意識付けが当然変わります。予算を使う、使わないに関わらず、質の高い施策をしていただけることで、市民の満足度が当然高まって、それが歳入の確保につながるし、歳出の抑制にもつながるであろうと思います。そうすると、個別の案件一つひとつに注力しすぎてしまったことによって、もっと全体的なものを見失う可能性が出てくるかと思えます。この点について以前、重点的に改善して、もっともっと進めていこうという案件について考えているという説明でしたが、そうではな

い部分も確かにあるはずですが。施策や取組を設定したけれどもその成果があがらない、予算は設定しているけれども本当に効率が良いのか、やるべきことなのか。要はだめなところもやはり評価すべきだと思うのですね。動いていない、そうであれば切り捨てるということも考えるべきで、そこで予算を削減したものを他の部分に注力することができるはずですから、そこを見落とさないようにしないといけないなど私自身思っていますので、そういったところを少し考えていただければと思います。

特に、「今後の財政見通し」には「扶助費の増加が見込まれる」という一文がありますが、どれくらいの増加が見込まれるのか具体的な数字が出てこない、将来的に予算が足りなくなるのか、やりたいけどできない事業が出てくるのか、ここを整理しておかないと、個別の案件について全力を出すのですけれども、そこで出てくる財政効果額以上にロスする部分が出てくるのではないかと、私を感じますので、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

(野田会長)

非常に重要な内容で、特に来年度は何を評価の対象にするのかということに関わってくるような話だと思います。今回は7つの分野だったのですけれども、平成30年度のことはいずれからご検討いただくことになると思います、そもそもこの施策、もしくは予算を設定したけれども全然効果が上がらなかったということの評価するという、そういう視点というのは今後この委員会で持ち得るのかどうかということについて、現時点で何かお伝えいただけることはございますでしょうか。

(事務局)

今山田委員からいただいたご意見ですけれども、我々もそこには課題意識を持っているところでございます。やはり小さいところに目が行ってしまうというのは、委員がおっしゃるとおりでございますが、第2次総合計画の中では37の施策を設定して、大きな目指す姿ですとか、達成度指標を目標にしてやっていこうというのがマクロの話で、やはりそこが一番大事な部分でございます。しかし、その中で効果額も求めていかないといけないという部分もございまして、そのあたりのバランスは難しいところではございますが、施策評価という施策全体を評価した中での方向性を踏まえて事務事業の見直しを行っていくという形で、今年度もこの委員会でご意見をいただきながら進めているところでありますが、平成30年度もその形は続けていきたいと考えています。

また、施策の中でも全く成果が上がらない施策があるのではないかとご意見ですが、今年度の第1回の委員会において、外部評価の対象施策の抽出方法がどうかというご意見がありました。今年度対象とした7つの施策は、市としては割と重要であると認識している施策であるとともに、7施策を抽出するに当たっては、市民満足度が低い状況で、かつ市民が思う重要度が高い施策という観点で抽出しているところ

ろではありますが、今山田委員がおっしゃられた観点から見ますと、逆に市民の満足度が低くて、市民が思う重要度も低いというような施策については、野田会長からは全くやり方を間違えているという可能性があるというお話もありまして、そういった施策についてもやはり見ていく必要があるのではないかという認識はしております。そのあたりは平成 30 年度の第 1 回の委員会では外部評価をお願いする予定をしていますが、対象施策の抽出の部分については少し考えさせていただきたいと思います。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

山田委員、いかがでしょうか。

(山田委員)

結局内部評価をしていくことは、ご自身が行政を運営していくにあたって、自分たちをしっかりと律しないといけないという、その部分の話です。先ほどのお話ですと財政効果を求めるということでしたが、マイナスの財政効果になっているものがないかということも評価しないといけないということを言いたいのです。プラスのことだけを追うのであればこの数字だと思いますが、何もやらないことでのマイナスの部分があるのであれば、それをなくしたら良いのではないかというのが私の意識で、そのためには内部の方の評価をしていくのだという意識があれば、そこに着目することもあるのではないかと思います。それが上がってこないという段階がまずどうなのかと思う部分ではあります。

(野田会長)

そうですね。最終的には外部評価をしても、行政に関わる情報は最も行政が持っていますし、政策のプロの方々の集団ですので、行政の職員の方々に頼らざるを得ない部分というのも多大な部分でございます。ただ、その議論の中で、満足度の指標も見ながら、内部的にきちんとコントロールしていく、律するということですね。本来やるべきではなかったのではないかというところを、満足度・重要度などを踏まえながら抽出するというプロセスに入っていくのではないかなというふうに思います。また平成 30 年度、ご検討いただければと思います。

他にどうでしょうか。齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

今山田委員がおっしゃられたことに追加なのですが、例えば今日参考資料としてお配りいただきました総合計画の実施計画、2018 年度から 2020 年度までと書いてあるわけですが、どのページでも構わないと思いますが中身をあけていただくと、「事業

の方向性」というところで「継続」「拡充」「新規」、そして「縮小」というのが一つ、二つくらいしか見当たらなかったのですが、多分山田委員がおっしゃられたことも、やはりこういうところで完了していかないと、終了年次をきちんと決めてあげないといけないことがたくさんあるのではないかと思います。終了年次を決めて、そこに向かって、目標が達成できたのか、どうだったのかということとそこで検討して、今後やるのか、やらないのかということを含めて考えていく、「事業の方向性」というのがスタートの方向性なのか、終わりの方向性なのかちょっと分からないのですが、多分こういうところで完了するというのを考えていかないと、事業は多分増える一方で、なかなか終われないと思います。多分、他のところでも同じようなことはあると思うのですが、そういうところも関係してくるのではないかなというふうに感じたところがありますので、ここでいう完了年度は全て 2020 年度で考えて良いのか分かりませんが、やはりまずは完了年度をしっかり決めてスタートするというのを心がける必要があるのかなというふうに思いました。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。

実施計画は3年でローリングされていきますので、完了年度も重複すべきものも入ってくるかもしれませんが、一応それも見据えてご検討いただければなというふうに思います。

各課の方に自分で縮減してくださいということは、自分の首を絞めることになりまますので、なかなか難しい部分がございますので、そこを我々のような外部評価委員会で、その都度取り上げていくということができればなと思います。

他にどうでしょうか。綱島委員、お願いします。

(綱島委員)

色々ご説明ありがとうございました。

ちょっと純粹に教えていただきたいという質問ですけれども、資料1の1ページ目の右上に市債残高の状況のグラフがございますが、その中で平成22年度末時点、合併後と平成28年度末時点以降を比較すると「その他の市債」の規模が大きく変わっていて、「合併特例事業債」との兼ね合いがあるのかもしれませんが、このあたりの増減のことを教えていただければと思いますので、お願いいたします。

(事務局)

綱島委員からご質問いただいた点について、清須市は平成17年と平成21年の2回の合併を経験しており、合併の際には「新市建設計画」「新市基本計画」という計画を策定して、新市の一体感を醸成するために必要な施設整備事業などを盛り込んだ計画となっているのですが、「合併特例事業債」はその計画に基づく事業に活

用できる地方債でございます。市町村合併は国が強力な後押しをして進めてきた経緯があり、「合併特例事業債」は後年度の償還に対して、地方交付税制度を通じてかなり有利な財政措置がされることとなります。

平成 22 年度末の時点では、まだ合併から日が浅いということもあって、合併前の旧町で借入した市債が約 67 億円残っていましたが、それ以降は「合併特例事業債」が活用できる事業、例えば「新市建設計画」「新市基本計画」には学校施設の整備といったことなども盛り込まれていますので、有利な制度を活用していこうということで、「合併特例事業債」の活用が可能な事業については巻き替えをしているということでございます。

(綱島委員)

ありがとうございました。

確かに「合併特例事業債」と「その他の市債」を足すと同じくらいの規模になりますね。よく分かりました。

(野田会長)

もう少々お時間はございますけれども、どうでしょうか。

よろしいですかね。この次の議題は今後のスケジュール等、平成 30 年度の委員会についてということですので、そこで皆様にお一人ずつご意見をいただきたいと思っておりますので、そこで再度、今ご議論いただいていることも踏まえてご意見をいただきたいと思っております。

そうしましたら、一つ目の議事についてはこれで終了とさせていただきます、次に二つ目の議事、「平成 30 年度の行政改革推進委員会について」です。事務局の方からご説明をお願いします。

3 議事(2) 平成 30 年度の行政改革推進委員会について

(事務局)

資料 2 平成 30 年度 行政改革推進委員会のスケジュール (案)
を説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

昨年度委員会で決めた「行財政改革推進プラン」に基づきながら、今年度は外部の視点を踏まえて、3 回の委員会ではあったのですが、ある程度積極的にご意見をいただき、それを反映できたというふうに考えております。

来年度も、基本的には同じようなスケジュール感で進めていきたいと考えておりますが、来年度のスケジュール、この 1 年間を通しての皆様のご感想、それから今後の

清須市の行財政改革の取組などにつきまして、今日はせっかく全委員が揃っていますので、お一人ずつご意見をいただきたいなというふうに考えております。

ちょっとご検討いただく時間がないかもしれませんが、齊藤委員から名簿順にご意見をいただければと思います。

それでは齊藤委員から、よろしくお願いします。

(齊藤委員)

来年度のスケジュールに関しては承知いたしました。今こういうスケジュールが出ているということで、着々と今年度と同様に進められていくということと、あと今年度出た課題を改善して、より良いものにしていこうという当局側の取組についてはすごく共感をしているところで、また期待をしているところでございます。

やはりですね、この委員会でも何回か言わせていただきましたが、どうしても少し消極的というか、すごく持っているポテンシャルはあるのにも関わらず、何か「清須モデル」のような取組であったり、あとは発信がちょっと下手な部分があるのかなと、下手という用語弊があるかもしれませんが、もっともっとたくさん良いものを作っていらっしやいます。子育て支援などに対してもすごく取組をされているということで、地元の方、知っている方は知っているけれども、なかなかそれが発信されていないのかなというのを感じられるところでございます。

やはり地元の方は、自分の市町村の名前が新聞やテレビに出るといったところも、すごく住んでいる側にとってはモチベーションが高くなりますし、自分のまちに誇りをより持てる場所の一つにもなるのかなというふうにも思いますので、もう少しそういうところで、今やっている取組も上手に発信をするということもしてほしいなと思っています。

また来年度、色々な清須市らしい取組がたくさん出ることを期待していますし、私も感じたことがありましたらこちらの方で発言をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。山本委員、お願いします。

(山本委員)

来年度のスケジュールの前にですけれども、中田委員と川口委員には会議前にお伝えできませんでしたが、私4月1日付けで異動になりまして、この委員会に参加するのも本日が最後となります。まず皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。スケジュールにつきましては、後任の福井、私の上司が次から参加しますので、スケジュールについてはしっかりと引き継ぎを行います。

内容につきましては、私はもともと本社でも広報をやっていたので、観光振興

の部分を中心に話をさせていただきました。それで言いたいことは、齊藤委員とも重複するのですが、やはり良いコンテンツをお持ちなので、それをいかにうまく情報発信するかということだと思います。特にこの地域では、中日新聞に掲載されるかどうかだけで地域への情報発信力が全く違ってきますので、地域担当の秦野さんとかとがっちり組んでですね、細かいデータでも、できれば尾張版ではなくて中日新聞全体に載るくらい、そういうところを一つひとつ狙って行ってですね、例えばKPI、目標の中に「市の活動で報道に何件載った」とか、そういうところを挙げてみるというのも一つの考え方だと思います。逆にそうでもしないとやる気にならないのかもしれませんが。

あと、企画政策課の方と一緒に朝日遺跡の2020年のオープンに向けて、清洲城と朝日遺跡と弊社、キリンビール名古屋工場との三者連携ということで、水面下で色々進めさせていただいております。是非そちらもですね、県と市と、できれば弊社と広報連携みたいなものを結んで、それを朝日遺跡の開館の半年前でも1年前でも良いので、市長と知事と弊社の工場長が集まって記者会見をやるだけで、多分テレビとかが入って情報発信につながっていくのではないかなと思っております。これは既に私の後任の者にも伝えておりますし、県の方の担当者も元々報道を担当されていて、そちらの方にも明るいということですので、是非そういうところからですね、開館前から盛り上げていただいて、本当に2020年の秋は清須市にとってチャンスだと思いますので、これを生かしていただくように是非お願いしたいと思います。私からは以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございました。綱島委員、お願いします。

(綱島委員)

私も1年間やらせていただきまして、なかなか勉強不足等もございまして、的確な意見等を申し上げることができたのかどうか、甚だ申し訳ないところはあったのですが、全体を通して他の委員の皆様からも色々な意見が活発に出されて、そういったものが今回こうやって集約、あるいは今後の市の施策に反映されていくということかと思っておりますので、どうしても中身的には定性的というか、ちょっと色々な意見があって難しいなというふうに自分でも思うところが多々ありますので、確実に反映をしていただくように、できることとできないこと、すぐにできることとできないこと、色々あるとは思いますが是非お願いをしたいなと思っております。

ちょっと私が思いますのは、やはりどうしてもハード的、インフラ整備みたいなものと、ソフト面、観光振興ですとか、かなり性格の異なる施策がございまして、インフラ面につきましてはやはり高齢化ですとか、住んでいる方の安全・安心につながるようなところは一番生活の根幹のところだと思いますので、治水対策など色々出て

おりますけれども、そういったところも含めてお願いをしたいと思います。

もう一つ、観光振興、情報発信といったソフト面の部分につきましては、今色々なツールや手法が大変発展していますので、是非民間というか外部との連携、あるいはアイデアをうまく取り込んでいただければ、より良くなるのではないかなと思います。

あとは先ほどの財政の話で申し上げますと、高齢化等に伴って扶助費などの歳出が目に見えて増えてきているという一方で、詳しい中身は分かりませんが普通建設事業費など、増えるものと減るもので全体としてはバランスがとれているように見受けられますが、必ず増えるものは構造的に分かっていると思いますし、それを別のところで削って補うということが有効な場合と、むしろ逆効果になる場合もあると思いますので、私も専門の立場ではないのですが、本末転倒にならないようにしっかりと見ていただければと思います。ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。川口委員、お願いします。

(川口委員)

一年間ありがとうございました。

商工会を代表するような形で参加させていただいたのですが、なかなか勉強不足で効果的なお話もできなかつたかなと思います。私自身の色々な勉強になりまして、本当にありがとうございました。

私の方からは、先ほど少しお話をさせていただいたのですが、それぞれの課ごとの連携がまだうまくなされていないなということが見受けられますので、今後新しく貝塚の資料館もできますので、観光や商売について課を超えた連携をとって、また商工会も是非協力させていただいてやっていきたいなと思います。

ちょっと先ほどの余談ですが、バスを増やすというのはなかなか大変かなと思いますが、例えばタクシーの補助金を出して活用するというようなことも良いのかなと感じました。

あと、先日3月24日に美濃路街道沿いで、空き家を活用した商店のちょっとしたお祭りみたいなことがありまして、そういうことも市と連携してやっていけると良いかなと思います。以前の西枇杷島町を盛り上げたいという方がいらっしやいまして、私の方にも話が来たのですけれども、ちょっとその時は協力できませんでしたが、街道の空き家の活用など、今ある資源をうまく使って市を活性化させると良いかなと思います。

あとはこれからの施策ですけれども、実施計画書を見させていただいてちょっと感じたことは、防災訓練の参加人数なども全人口からすると1%に満たないくらいの方であったり、子育て支援では100万円程度のお金をかけても参加が1人というところ

もあったので、やっていることはとても良いことをやっているの、先ほどお話もありましたけれども、それを外部とか市民の皆様にアピールできるようなことをもう少し進めていかれると、より良い清須市になっていくかなと思います。

半年くらい前に、早稲田大学でしたか、ローカルマニフェストで清須市はあまり良くないというような中日新聞の記事もありまして、「なにくそ」と思いましたので、良い清須市、誇れる清須市になっていけるように私自身協力させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。山田委員、お願いします。

(山田委員)

どうもありがとうございました。

第2次総合計画の策定に参加させていただき、引き続き行政改革の方ということで、内部評価を外部から評価するというちょっと難しそうな話に携わってきて、私自身先ほどもお話したように、何回かやっていくごとに段々先の方だけ、先端だけ見るような話になりがちになってしまったことを、自分自身反省しなければいけないのと、またこの3か月ごとの会議で、自分が前にどのような意見を言ったかということ、もう1回議事録を見ないと思ひ出せないようでは自分自身いけないなと思ひながら、職員の方に内部評価で「自分を律しなさい」という話をする前に自分もきちんとしないとねというのが、この1年を通しての感想です。

どうしても職業柄、歳入・歳出のお話を見がちになってしまって、明日破綻するようでは意味がないですし、今調子が良くても5年後なくなったらやはり意味がない。継続的にずっと続いていただく必要がある、しかも隣町よりも良くないといけない、良い状態でいたいというのが皆様の思いだと思うのです。そういう環境を作り出せるのであれば、ここに住みたい、また人が増える、より良い環境が生まれるという循環になろうかと思うのです。その最初の部分を皆様で一生懸命やろうとしているので、最終的な目的のイメージを共有できれば一番よろしいかと思ひます。また引き続き頑張りたいと思ひますので、よろしくお願いいたします。

(野田会長)

ありがとうございました。高山委員、お願いします。

(高山委員)

今年もありがとうございました。

資料を見ながら、うちの家内に「戦国ブームはもうそろそろ一段落かな」と言ったら、「そんなことはない」と叱られまして、観光の面でまだまだ引っ張れる、もっと

持っていける部分はあるのかなということを感じております。

私も何年か委員をやらせていただいて、参考資料で実施計画なんかもいただいて、見させていただくと、徐々に内容も充実してきているのかなという気はしております。ただ、まだまだ、高齢化の進展などによって扶助費が着実に増加するという話がありましたので、例えば高齢者福祉のところでは資料の53ページを見ると、「やろまいか教室」と「いこまいか教室」って何だろうとか、果たして活動指標が「開催回数」と「開催箇所数」で良いのかとか、参加人数の状況が全然分からないし、参加人数に応じて国・県支出金が入るシステムなのかとか、あるいはこの事業は実際に介護予防に貢献しているのだろうかとか、そんな色々な疑問がありまして、もっともA4一枚のシートでどこまでそれを伝えきれる内容にできるかというのは難しいところだろうとは思いますが、まだまだこういったところも色々見直していく余地はたくさんあるのだろうなと思ひまして、一つひとつ今後もやっていただければと思ひます。

また思いついたところから、言いたいことを言わせていただきますので、一つよろしくお願いいたします。

(野田会長)

ありがとうございました。福田委員、お願いします。

(福田委員)

失礼します。

毎回市の根幹に関わるようなこういう会議に出席させていただいて、緊張感の中で、意見として言うことは少なかったのですが、勉強させていただくことばかりで、本当に感謝、感謝です。毎回膨大な資料をご用意いただいて、それから皆様のご意見を聞きながら、「そういうところにも目をつけないといけないな」というふうに、本当に私自身の勉強になりました。

私も高齢者ですので、先ほどから出ております扶助費の方をたくさん使わせていただいているということで、先ほど「やろまいか教室」と「いこまいか教室」のお話が出たのですが、「やろまいか教室」の方は毎週金曜日にアルコ清洲で、午後1時半から1時間、コグニサイズを主にした高齢者向けの認知症予防と運動をとということで、私もできる限り参加させていただいておりますが、天気の悪い時、風の強い日や雨の降る日は42、43人の時もあったのですが、陽気の良い、一番多い時には90人の参加がありました。大体いつも70人程度はいらっしゃいます。また、そういうところへ出かけられない方のために、最近は「いこまいか教室」ということで、自治会単位で、公民館でストレッチとかそういったことをしてくださるということで、本当に認知症予防と介護予防にたくさん気を使わせていただいて、お金を使わせていただいているなということで、本当に感謝しております。

私も高齢者の会とか、それからボランティアの会に出かけることも多いものですから、市がやってくてくださる事業とか、予算面、こういった会議で出たお話、そういった情報を皆様に伝えると同時に、皆様からの要望もまたお聞きして、こういった会議ですとか、担当課の方にお話をさせていただいたらありがたいなというふうに思います。

それから特に、協働の係を作っていただけということ、大変嬉しく思っております。また色々お世話になります、どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。中田委員、お願ひします。

(中田委員)

中田と申します。

私は子育て支援のことに関しては、意見が少しは言えたかなと思ひますが、それ以外のことは、ちょっとなかなか思ひつくこともなく、聞く側に回ってしまい申し訳ないなという気持ちで一杯ですが、とても勉強になりました。ですので、こういう委員会に参加できて本当に感謝しております。

子育てに関してはたくさん、前向きに色々な取組を充実させていただいて、放課後子ども教室も平成 30 年度、平成 31 年度に全小学校で開設されることになり、「すごいな、公約とか、きちんと決めたことを守っていただいているのだな」と嬉しく思ひていますし、子育てコンシェルジュも設置されて、あとは子育て支援サービスでも平成 30 年度に、ひとり親家庭に対して食事を提供する、そういうことにも取り組むということを知ったので、新聞で名古屋市のそういう記事を見て、清須市はどうなのかなと思ひていたら、清須市もちゃんとやるのだと思ひてびっくりしました。

一方で、朝日遺跡が整備されて、そういうことに関してボランティアで携わっている人たちの力がとても役に立っていると思ひるので、そういう人たちへの支援というか、もちろんボランティアの方々は何も期待することはないと思ひのですけれども、その人たちの勉強会とか、交通費とか、市としてそういったものが出せる予算を考へていただけると、もっともっとボランティアをやる人が増えて、清洲城のガイドボランティアなどもたくさんの方が携わることができて、来ていただく観光客の皆様を楽しませるおもてなしができるのではないかなというふうに思ひます。

また、例えば、放課後子ども教室に来ている子どものお母さんに、「代表で会議に出ただけませんか」とお願ひして、そのお母さんが会議に出ると、意識が全然違ってくるのですね。放課後子ども教室に対する協力とか、意欲的に色々なことを発言していただけたらするので、一人でも多くの市民にこういう委員会に携わっていただいて、その人たちの意識が変わって、それが周りのママ友達などに伝わっていくような

形にもっていければ、また素晴らしい清須市になるのではないかと思いますので、市民参加、開かれた清須市になるように努力してほしいと思いますし、私たちも協力したいと思います。事実、私もこういう委員会に参加して、全く興味のなかった市政に対して「今こんなことをやっているのだ」と思うようになりましたし、昨日の新聞には清須市の人事のことが載っていきまして、「出世をされてすごいな」とか、そういう興味を持って記事を読むことができました。

私も頑張って協力していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(野田会長)

ありがとうございました。

本日も皆様にご協力をいただきながら、色々なご意見をいただきましたが、もし言い残した点、もしくは質問等があれば気兼ねなく言っていただければと思います。

どうでしょうか。よろしいですかね。

皆様の意見で割と共通している部分もございましたし、最後に私の方から感想等をお伝えしたいと思います。

齊藤委員からお一人ずつご意見をいただきまして、情報発信の重要性とかですね、せっかく良いものを持っているという部分がございますし、情報発信を工夫することによってかなり大きな成果が得られるのではないかなというところは、私もそのように考えておりますし、また、市の根幹に関わる安全・安心関連の取組をハード・ソフト両面でしっかりとやっていくということであったり、あるいは観光というところが結構皆様のご関心が高かったかと思います。観光で大きく変わる可能性もございますし、そのためには連携というのは非常に重要だと思います。一丸となってやっていくべき取組だと思いますので、そのことは私も勉強させられたなというふうに思っています。

また、この委員会に来て勉強をすることになったとか、または協働でとか、ボランティアでとか、それから自分を律するという点について、我々自身もというようなお話をいただきました。それがこの委員会で、私自身が得た最も大きな成果であったというふうに思っています。来年度もその意見を踏まえて、引き続きやらせていただきたいと思うのですが、一応評価はしているのですが、結局清須市民さんの税金を使いながらそれをプールして、清須市でその事業を行っているということですから、清須市のサービスというのは皆のためのサービスですので、公共サービスというのは皆のためのサービスであると、それを「市役所がだめだから、市役所がけしからん」というのではなくて、市役所を外部から評価して、自分たちもその責任をとっていかうという、そういう立場のように感じられました。非常に良い内容だと思います。他市さんもそうなのですが、なかなか各組織の方々が内部で自己評価する時に、本当はそんなに重要ではないことだけれども、前例踏襲でやらざるを得ないな

という部分が結構あると思うのですね。そういったものを外部から批判的に言うことによって、「市民の意見だから」というふうに職員の方々も言いやすくなるということがありまして、各ポジションの方々はなかなか言い難い部分がたくさんあると思います。部長級になると色々な権限は出てくるのですけれども、言い難い部分もあると思いますし、市長が言ってくれたらなという部分はあっても言い難い部分があるのですが、その時に一番効果を発揮するのは、やはり外部からの意見というのがエビデンスになっていくというふうに考えております。

ですので、そういったことも今後継続的に清須市さんの方で、こういう外部委員会をやっていくことで、本来そんなに財政的に悪くない、むしろ良い市なのに自己改革を行っている、本当にモデル的な先進事例の都市だと思っていますので、外部の意見をベースにしながら、これからも継続的に改革していきたいなというふうに考えていますし、そのようにしていただければと思います。

1年間、本当に拙い議論の回し方でご迷惑をおかけしたところも多々ございましたが、引き続きご協力いただきたいと思っておりますし、山本委員におかれましては、ご異動をされてもこの地域での観光とか、色々な面でつながっている部分がございますので、是非ご関心を持っていただいて、色々なところからご意見をいただきたいと思っております。

引き続き、次年度もどうかよろしく申し上げます。1年間、どうもありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。

4 閉会

(事務局)

皆様、ありがとうございました。

1年間、本当に貴重なご意見をいただきまして、それを一つでも多く今後の行政改革につなげていきたいと思っております。

とはいえ、山田委員、高山委員におかれましては以前から委員会に出席していただいておりますので、本日色々ご意見を聞いて、「まだまだ何も変わってないよね」と思われているのかなということがちょっと心配ですけれども、正直申し上げてこの行政改革、まだまだ私ども一步一步階段を登っていく最中であると考えておりますので、一つでも多く皆様のご意見を取り入れながら、良いものにしていきたいというふうに思っておりますので、これからもご協力お願いしたいと思っております。

来年度の委員会は、山本委員におかれましては本日が最後ですけれども、引き続き皆様にご出席をお願いしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

なお、第1回の委員会につきましては、7月の開催を予定しております。また、詳細につきましては、改めてお知らせをさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

本日は長時間に渡りご審議を賜りまして、ありがとうございました。

以上で終了とさせていただきます。

問い合わせ先	企画部企画政策課 電話 052-400-2911（内線3251）
--------	-------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 山田 康博

署名委員 高山 孝治